

# KOBE MODERN CULTURE

## 美術



### ★「銀河庭園」—山口勝弘ビデオスペクトル展

14日(日)まで 10時/17時 観立  
近代美術館 一般800円 大高生  
600円 中学生300円

日本の代表的な現代美術家、ビデオアートの第一人者である山口勝弘の環境的なビデオインスタレーションの新作を展示し、新しい芸術の姿を紹介する。「銀河庭園」—それは、彼が



山口勝弘 一人の庭園師としての創造した、先端的な映像テクノロジーによる、宇宙感覚の「人工自然庭園」である。新たな自然系「第二の自然」として立ち現れたテクノロジーとの創造的な交感、又、それらを通して自然や宇宙と触れ合う人間のパフォーマンスは、早くから「イマジナリウム」の構想として発表され、80年代の彼の「未来庭園」シリーズの主要なテーマとなつた。今回はその試みで大胆に具体化させたもので、実験的な音と映像により、ハイテクノロジー「銀河庭園」の世界を心ゆくまで味

## 演劇



### ★シェイクスピア作「冬物語」

5日(金) 18時半 6日(土) 14時半  
ビッコシアター 一般3500円 高校生2500円

「冬物語」は「テンペスト」と並ぶシェイクスピア晩年の最高傑作といわれている。シェイクスピアはこの作品の構想を、同年代のロバート・グリーンズのロマンス物語「バランドスト」から借りて、いくつかの改変を加え、結末を完全にハッピーエンドにしている。そして憎悪と愛、罪と許し、別離と再会、死と再生、冬と春と昇りというよう



昇りというよう 仲谷に人生や自然の両局面、人



功間とあり 橋爪とあらゆる体験を豊かに包みこんでいる。

演劇集団「円」が、この傑作悲喜劇に、仲谷昇の老羊飼、橋爪功のシチリア王レオナルド、高林由紀子の王妃ハーマイオニ、有馬昌彦の家臣アンティゴナスほかの最高配役で取り組む。

### ★オンススター自由劇場公演

「ドタ靴はいた青空ブギー」  
9日(火) 18時半 神戸文化ホール 一階4000円 二階3500円

東京、六本木にある小劇場「自由劇場」がオーブンして20周年を迎える。その記念シリーズの最後の公演



吉田日出子(左)と車田和美

が「ドタ靴はいた青空ブギー」。吉田日出子・主演のこの舞台は、戦後まもないアメリカ占領下の日本で、国民が「鬼畜英米」と言った時代を、アメリカの側面も描きながら、「アメリカ大好き」と変貌してきた日本人たちを、スイングジャズのリズムにのせて、オンススター自由劇場風に仕上げています。斎藤操・作、串田和美・演出、吉田日出子・主演のゴールデントリオによるステージ。

## 音楽



### ★伊藤叔十木村俊光・林光

2日(火) 19時 県民小劇場 指定席・当日自由席3000円 高校生以下自由席1500円



光ステ、林ちよつと他に

類を見ない豪華版。「踊る」という以上に「音楽を見せ、楽しませる」を意図した。プログラムも、モーツァルトの二重唱、ダンス、グ、昔のなつかしい童謡、ジャズと実に多彩であり、出演者たちの力量が発揮されるだろう。

### ★オペラティックリサイタル・濱崎加代子「椿姫」

23日(火) 19時 神戸文化ホール 3000円(自由席)

関西二期会会員で、各種オペラ、演奏会で好評を博し、現在、オペラグループ



濱崎加代子 デイ・アラ・KOB E代表

代子の神戸での初のリサイタル。

ジュゼッペ・ヴェルディ作曲の有名な歌曲「椿姫」を、一般の人にもわかりやすく、リサイタル用にアレンジしたもの。主役ヴィオレッタに濱崎加代子の他、アルフレードに日高好一、

ジェルモンに井上敏典、アンニナに大垣和永、医者に松位浩。

# ★大阪フィルハーモニー交響楽団「第九」

14日(日) 19時 神戸文化大ホール  
4000円

指揮に尾高忠明を迎えての大フィルコンサート。

今年は、ソプラノにカローラ・ノセク、アルトにハイドイ・リース、テノールにシユテファン・シユビーウオク、バスにユルゲン・

クライアーで、合唱に創価学会関西男性合唱団とあけぼの合唱団という異色の取り合わせで行われる。



尾高 忠明  
トイ ベン

の交響曲第9番ニ短調(合唱付)の他、同じくベートーベンの序曲「コリオラシ」

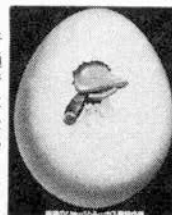
## 映画



### ★スーパードベンチャー ハワード・ザ・ダック

12月上旬より国際松竹にてロードショー。大人12000円(当日1500円) 学生10000円(大・高生13000円 中学12000円)

アメリカの人気漫画「ハワード・ザ・ダック」をもとに、カツツとハイク、ルーカーのプロジェクトチームが12年間構想を練り続け体長38インチのニュースーパーヒーローが登場。



まさに人間ワザとは思えない冒険の数々

普通ではないセンスの持ち主、ハワードの奮闘をお見逃しなく。

★この映画のチケットを5名様にプレゼント。希望者は筆書に住所・氏名を明記、神戸っ子「松竹」係へ。



## 音楽

### ★第九シンフォニーの夕べ

20日(土) 19時 神戸文化大ホール  
A3500円 B3000円 (全席指定)

### ★86 JAZZ DANCE FESTIVAL

5日(金) 6日(土) 17時半 国際会館 2000円

### ★第九の夕べ

8日(月) 19時 国際会館 S4000円 A3500円 B3300円

### ★田中敬子ピアノリサイタル

6日(土) 18時半 市立生田文化会館2F大ホール 1500円

### ★テレマン室内管弦楽団演奏会

5日(金) 14時 神戸文化小ホール 整理券

### ★青年座公演ミュージカル「バラダイスオブギンザ」

18日(木) 120日(土) 18時15分 21日(日) 13時半 神戸文化小ホール 3000円

### ★ベガ・オルガン音楽祭

2日(火) 14日(日) 19時 宝塚ベガホール

★神戸芸術協会第2回オペラ公演

### 「泥棒とオールド・ミス」

26日(金) 18時半 神戸文化小ホール 4000円

### ★チェロとピアノの夕べ

24日(水) 19時 アルカイックミニホール 1800円

### ★教会カンタータの夕べ

5日(金) 19時 神戸教会 1000円

### ★石川憲弘・大友竹邦ジョイントコンサート

16日(火) 18時半 県民小劇場 1500円



## 映画

### ★市民映画劇場「彼岸花」

11日(木) 12日(金) 18時半 13日(土) 14時 神戸文化小ホール 500円



## 演劇

### ★ぬいぐるみ人形劇

24日(水) 13時半 国際会館 S2000円 S1700円 A1400円 B1000円

★劇団風の子クリスマス公演「こ



## 古典芸能

★演曲大会・京山幸枝若他 11日(木) 10時 13時 神戸文化大ホール 前売1500円 当日2000円



## 舞踊

### ★DICIEMMILE Y FLAMEN CO

4日(木) 19時 ルナホール 2500円



## 美術

### ★大丸美術館

啓略会陶芸展 12/3/12/9 岡義美洋画作品展 12/10/12/16 迎春木彫展 12/17/12/23 有名巨匠巧芸画展 12/24/12/31

### ★そごう美術館

兵庫県日本画友会連盟展

明石美術協会会員展 12/5/12/10

兵庫県高輪倉創作作品展 12/12/12/17

★ギャラリイオブジェ サンタのおくりもの展 12/19/12/26

★サンバル市民ギャラリー 12/10/12/25

AQ展 12/5/12/10

福井誠興展 12/12/12/17

グループ舟小品展 12/19/12/24

関西漫画家連合会ビッグニュース展 12/26/12/30

★サンバルミニギャラリー

六甲山まち山写真コンクール入賞作品展 12/5/12/10

★農民アートギャラリー 12/12/12/17

第32回なべの会美術展 12/2/12/7

草花達展 12/2/12/6

正筆会・同人書作展 12/8/12/10

★海文堂ギャラリー 12/16/12/25

薄雲墨展 11/29/12/5

音楽のある情景 12/13/12/12

遊遊プラン展 12/13/12/25

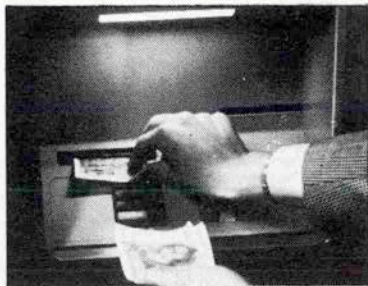
備前焼・木村玉舟陶展 12/26/1/3

## ■CINEMA 試写室

ブレッソンの『ラルジャン』  
曇った冬空を思わせる映画

淀川 長治

〈映画評論家〉



ロベール・ブレッソン監督のフランス映画「スリ」PICKPOCKET（一九五九）を見たときのショックは今でも忘れられない。日本封切から二十六年もたったのにそれを昨日見たという感じ。一時間四分のモノクロ作品なのに、あたまのなかではブレッソンのあざやかなる代表的名作としてきざまれている。スルことが病みつきとなった青年が競馬の競技場で自分の目の前の婦人の手さげかばんから金を盗むところのこわさが今も目に焼きついていいる。映画は小説や舞台劇とちがってカメラを婦人にちかずけて婦人とそのうしろの青年を画面いっぱいに見せる。競技見物に夢中の中年婦人の顔と今しも盗みにとりかかる青年の顔。つぎのカットで青年の片手の指三本が婦人の肩から吊<sup>さ</sup>げているかばんのふたの金どめをひらく。指がかばんの中に這入る。つぎのカットで再び正面からとらえた婦人の何も知らぬ顔とその婦人のうしろにびたりとくっついた青年のこわい顔。これを同時に見せる。ついに青年は婦人のかばんから金をとった。まだそれに気づかぬ婦人。このふたりの顔を私たち（観客）は正面からひとつのシーンの中に見る。自分が盗まれているときこわさが迫る。ブレッソンはこのスリ青年の苦しみを描いて、映画が人間の業（こお）をかくまでもフロイト的なえぐりだすかを、それを映画美術をもって、ブレッソンは、おどろかせ、こわがらせて。

このブレッソンは二年に一本、三年に一本。このような作り方をする監督である。そして「たぶん悪魔が」（日本未封切の一九七七年作）からなんと六年ぶりに「ラルジャン」LAL JEAN（一九八三）を発表した。そしてこれがフランス映画社の手で輸入されことしの年末に封切というブレッソン・ファンにはこうふんが訪れた。「田舎司祭の日記」「抵抗」「ジャンヌ・ダルク裁判」「バルタザールどこへ行く」「少女ムシエット」「やさしい女」「白夜」などのブレッソン映画が日本では公開されている。そしてそのどれもがサイレント映画を思わせる静けさのなかにブレッソンの映画詩がうたわれてきた

X

「ラルジャン」（金）はトルストイの一九一一年の遺稿として公表された中篇小説「にせがね」からブレッソンが脚色し台詞も書き監督した一時間二十五分のフランスとスイスの製作のこれはカラー映画である。はなしは現代のパリになっており、高校生が父に小使いを余分にせがんだところ父にことわれ、借金が返せなくなっ

てクラスメートに相談する。そのクラスメートは一枚のにせ札を持っていた。五〇〇フランのにせ札だ。二人でそれをもって写真店で安いがくぶちを買い、まんまとツリ銭を取った。店主はそののにせ札を、にせ札と発見しながら、だまってガソリン配達人イヴォン（クリスチャン



・パティ)のガソリンの集金にはらってしまふ。なにも知らぬイヴオンは昼食代をその札ではらったが、にせ札とわかり警察に通告される。このイヴオンには幼い娘と妻がいる。裁判となってイヴオンは有罪となる。最初ににせ札を使った少年、その少年の顔をおぼえている写真店の主人の妻。映画は一枚のにせ札が、それを使ったことから、それをめぐる人たちを、復讐と怒りと悲しみをも加えた大きな罪へとひろげてゆく。そしてそれは大きな罪と同じだけのこわい大きな悲劇を生んでゆく。

×

高校生がにせ札を使ったことから始まってこの映画が殺人というような悲劇へとひろがってゆくこわさをブレックスンは叫声をあげて作ってはいない。問題は罪の意識を知らぬ高校生を見つめているこの映画のこわさであった。それを無言にちかい静けさで見つめているブレックスンの目のするどさが、叫声をあげてこの少年そしてこれらの大人の罪をただすのではなく観客の目と心にその罪の底知れぬ深さを無言の鞭ともいえるきびしさで示すのであった。この映画はむしろドストエフスキーに近い。人間が自分ひとりを守るがために他人に犯す罪が、やがて一人の人間を狂わせてしまうまでに残酷に追いつめてゆく人間悲劇。日本映画が、かりにかかる人間悲劇を描くとすると、それはもう暗く苦しく悲しく映画館にはいつて苦しんでくるだけのシンコク映画にしかねぬがフランスのブレックスンはこの「ラルジャン」をピアノのソロでも聴くような画面の美しさのなかで、見たあととはじめて「罪と罰」を読み終ったかのような、人間の弱さを、人間のこわさを、人間の悲しさを、見せきるのであった。イヴオンに扮した俳優をはじめすべて日本ではあまり知られぬ俳優を使っているの、かえて、ドラマだとか劇映画だとかといった映画からの外の空気がはいってこないことで真実というか実感というか、見つめているこの映画の中から吸いこむ「人間悲劇」がまっすぐに見る人にしみこむことになる。



イヴオンに面会に来たエリーズ

## SPECIAL MESSAGE

## 神戸百店会だより

## RAPORTE OPEN



## ★おもちゃのカメヤ

芦屋ラポルテ店オープン  
TOY&FANCY GOODSの店、カメヤが、11月1日、芦屋ラポルテ本館の1Fに新店舗をオープン。ファミコン、テレビゲームが大流行だが、カメヤではカナディアンウッドの木のおもちゃ、実物大の各



夢いっぱいカメヤラポルテ店

種ぬいぐるみなど、じかに触れて遊べる、考えながら組み立てていく、といった暖かみのある、育児玩具を中心に、品揃え。ディスプレイを見ているだけでも楽しくなっています。

## ■カメヤラポルテ店

☎0797(38)2513

## ★新エレガンスファッショ

ンの提案、装苑芦屋店。神戸エレガンスを追求しつづけてきた装苑が、ラポルテ芦屋・ホテル竹園2Fに4店舗目をオープン。



神戸色が漂う店構え

今まで正統派のお洒落を展開してきたが、このラポルテ店では昨今のCDブランドの流れを少し取り入れた商品構成となっている。ユキ・トリイ DEUX Blue Grass, Blumarine, Les halléなどエレガンスの流れを汲んだカジュアルウェアの各ブランドはいずれも神戸色が漂うものばかり。

## ■国鉄芦屋竹園ホテル2F

☎0797(22)8100

## RAPORTE OPEN

## ★SALON DEMASUYA

ラポルテにオープン  
元町の老舗「マスヤ」が11月1日、芦屋ラポルテ2Fにオープンした。ヤングミセスを中心に地域に密着した店を目指すこの「SALON DE MASUYA」は、ビビットな神戸カラーをメインに展開。芦



遊び着感覚がすてきノ

## OPEN

## ★季節茶屋 菊水

大丸地下にオープン  
伝統の自然の素材ともてなしの心を大切に、昔ながらの正統な手法を守り続けている菊水総本店が大丸の地下に「季節茶屋菊水」をオープン。ミセスを中心とした甘党に人気上昇中だ。「祭司の味を楽しむ」をテーマにした菊水総本店の季節の和菓子を中心に、和三盆せんざい、おしろい、みつめ、元旦ぞうに(白みそ)二日ぞうに(すまじ)などのメニューとなっている。「純粹な本物の味を本格的に楽しんでください」



シンプルさが上品

いですね。」と山本店長。

黒と淡いパープルで統一されたシンプルな店内で照明が工夫されておりオシャレ

屋ミセスに明るく透明感のある色使いをアピールしている。  
フォーマルから少しはずれ、何げなく着れて気取りがなくオシャレな遊び着感覚のワードローブ。マダムジョコンダやジョン商事などのアダルトでシャれた品揃えとなっている。  
またアクセサリー類も豊富で、洋服のボタンと同じデザインのアクセサリーなどディテールが関連したトータルファッションも楽しめる。

## ■サロンドゥマスマスヤ芦屋店

☎0797(38)2552

## ■季節茶屋 菊水

☎078(33)16251



# PEOPLE <51>



●家庭的な雰囲気のある店にしたい  
大石 マキさん <神ファミリア西部>  
小売部 芦屋店

5年前まで専業主婦だった。北野坂店でのアルバイトが縁で、今回はラポルテ内の新店舗を任されることに。「最初、働くことにいい顔をしなかった主人も、今は料理をしてくれるほどになりました。娘や母の助けも得て、楽しくお仕事をやって行きたいですね」と語る。「母」のキャリアは、そのままファミリアに生かされているようだ。

## ART

### ●元町丸善で 石阪春生近作自選展

10月30日から11月4日までの6日間、元町の丸善で石阪春生さんの近作自選展が丸善の元町開業50周年の記念行事として催された。



‘84年から‘86年の間に描かれたデッサン5点、版画2点、油彩9点の計16点が展示され、テーマはこれまでシリーズで展開している女のいる風景。「最近の絵の方が気に入っている。色彩もクリアーだし存在感がはっきりしている。」と石阪さん。「民家の廃墟嗜好」のもの憂げな表情の女性がかもし出す雰囲気は、独特で、ファンを魅了する。

## PRESENT CORNER

●応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町113-1大神ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。12月20日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を発送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りにお出かけ下さい。



### ●季節茶屋菊水より

御飲食券を  
大丸B1Fにオープンした季節茶屋菊水より御飲食券を20名様様にプレゼントします。和三盆など甘党にとっておきのメニューです。お好みに応じてオーダーできます。はんなりとした味は絶品。ぜひご賞味ください。



### ●カメヤより

「雪だるまのクリスマス」を  
TOYS & FANCYGOODS のカメヤより、新製品の\*雪だるまのクリスマス\*を5名様様にプレゼントします。かわいいう雪だるまの人形がジングルベルの曲に合わせて動きます。クリスマスプレゼントにもピッタリ。受け取りは編集室まで。

## TOPICS

### ●「造本・装幀の美」須川誠一の仕事

10月16日から21日まで、丸善神戸元町ギャラリーで開かれたこの展覧会には、須川一さんの「造本・装幀の技術」を紹介するもの。雑誌や文庫本などの、手軽な本が好まれる一方で、心に残る一冊を大切にしたいと願う愛書家も少なくない。須川さんは、そんな声に応え、地道な本造りを続けている。この展覧会は、明治中期に創業し、高度な技術を要する聖書の製本も手がけたという祖父、そして、その技術を受け継いだ父への鎮魂でもあるという。昨年「製本技術優秀

賞」を受賞し、伝統は、確実に三代目へと受け継がれている。

### ●ファッションパークコレク

ションとしてさまざまなイベントが開催中。「サンフランシスコ・ロサンゼルス・ハワイ8日間の旅」ご招待セール「クリスマス・エキスプレスラッキープレゼント」パークカード会員には「札幌雪まつり&スキー3泊4日の旅」などなど楽しいいっぱい。またビッグプレゼントとして神戸クアハウスご招待入京券を10組(20名様)に、ハガキに住組・氏名・年令・職業・電話番号をご記入のうえ〒650神戸市中央区三宮町1-9-1135ファッションパーク事務局フアッションパーク通信へ。

■こころの  
歳時記

# 華麗なる新隠居論を

小室 豊充 氏を訪ねて

＜大阪府立大学教授＞

関人／大谷晃世＜大谷徳風社長＞



大谷晃世社長



小室豊充教授

大谷 小室豊充先生（大阪府立大学教授）には「現代ながた大学」でも大変お世話になっておりますが、先日、四冊目の専門書「社会保障と福祉施設の展望」を上梓されましたが、先生が一番アピールされたい点はどこなところでしょうか。

などと老後を華麗に生きて、死に甲斐の手前を楽しんだのですね。だから、豊かな新隠居論を展開したいと思うんですよ。

大谷 それは素晴らしいですね。先生自身はどんな生き方がお好きなのですか。

小室 ぼくは夭折願望がありましてね（笑）。若い頃から中原中也や石川啄木、芥川竜之介、太宰治、立原道造など、若くして死んでいった人々が非常に好きですね。

いつ挫折するか、いつ死ぬかといった人生の極限を生きている。梶井基次郎にしても純粹だから傷つきやすいはかなさを持っている。完成よりも未成熟、成熟よりも未熟。成熟に向いたくない。破壊の方がビューティフルですよ。

いずれにしてもぼくは人間への関心が異常に高く、いい人わるい人で分けたくない多様さが好きですから……。

大谷 先生が長田の住人であらうしやるのも人間の多様さがあるからですね（笑）。

小室 そう、長田には人間の生活の多面性がある。「兵庫の津」から発展した兵庫界隈や新開地、長田といった地域には神戸の背骨があるから、新開地がよみがえることが神戸の復権だと思いますね。

だから大学も神戸から通える所

というので、他からお誘いを受けても全部おことわりしているという神戸大好き人間です。

大谷 お葬儀についてはどんなお考えですか。

小室 アメリカの心理学者の間でも出て来ますが、これからは死後の世界から自分を照らして見て、生きているのはプロセスだというような発想が中心になるでしょうね。

デカルト流の、人間は生成発展消滅するという考えから、死後の設計まで考えて行く時代なのですよ。アメリカでは、卒業式をコメントメント（commencement）といって、次への出発の儀式なんです。日本では「業」を終える意味なのですけれど……。だからお葬儀も「死後の世界」への出発の儀式だと思っています。

全葬連認定「葬祭専門士資格取得者」  
株式会社 大谷 徳風 社

代表取締役 大谷 晃世

全国葬祭事業協同組合  
神戸葬祭事業協同組合理事  
神戸市規格葬儀取扱指定店理事  
本社／神戸市長田区松野通1-11-12  
078-621-0089  
鈴蘭台支店／078-592-5485



びっと・いん



★7周年へ向けて快調の

ウェーブ、店舗も3つに

サテンドールを振り出しに独立し、ウェーブをオープンした井上豊氏が6周年のパーティを10月19日、デイスコ・ヴィンクで催した。ウェーブを皮切りにBA



挨拶する井上さん(中央)

R DAY、炭火串焼のイフと順調に3店舗に増え、脂が乗っている井上氏。『お客さまへの感謝をこめて楽しい企画を盛り沢山に組みました。チャリティーの売り上げは厚生事業団へ寄付します。歌って、踊って、飲んで食べて、ファッションショーを楽しんで最高の一日にしたい』と200名のお客さまに挨拶。スタッフも悪のり気味のパーティだった。

■ビジネスホテル第2北上地下  
392-3166

★「多国籍」ファッション  
ショップ誕生

「面白サンデー」や「エンドレスナイト」で紹介されてからすっかりおなじみ、多国籍料理の「ニュートンサーカス」に、この度「ニッポティックカズ」がオープンした。

オーナーの池田和彦さんは、もともとニッポブランドの主催者で、その直営店がオープンしたというわけ。おしゃれな店内には、イ



明るい雰囲気の外観

タリア、フランス直輸入のアンゴラやモヘアなど超高級素材を使ったセーター類がズラリ。いずれもここでも買えないオリジナルだ

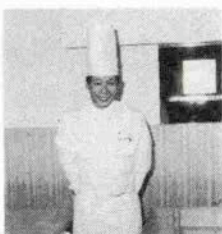
「多国籍料理も伸縮自在のニットも『自由』の象徴」という池田さん。衣食同根のクロスオーバーファッションショップだ。

■中央区北長狭通3-11-10  
332-6306

★忘年会・新年会は

お得な「花心」へ

三宮で有名な阪急三宮駅北側の「あじびる」4Fに、花心がオープンして半年近くたった。平日はしゃべ



チーフの河野登さん

やぶ食べ放題で1980円と2480円のコースがあつて、老若男女に大人気。今度、初めての年末・年

始を迎え、特選鉄板焼飲み放題4200円、和牛しゃぶしゃぶ飲み食べ放題5000円と、大変なお得なコースを設定。さらに、6時迄に終了か、8時30分以降に始まる宴会なら、しゃぶしゃぶ飲み食べ放題も、焼しゃぶ飲み食べ放題3960円。「絶対お得ですよ」と河野整チーフは語る。

■中央区北長狭通1-4-12あじびる4F 332-1345 6年中無休

●神戸うまいもん  
とドリンキング

鰻料理

青柳(あおやぎ)

中央区元町通3丁目11-14  
331-2292  
11AM-9PM 日祝休

元町商店街の一本北側の通りにある青柳は、昭和22年創業の老舗。鰻料理を中心に、季節のものを使った一品が美味とグルメたちに好評だ。

鰻は、関西風直焼で蒲焼きが2000円、中が1700円とお値段も手頃。タレをぬらずにさしみ醤油で食べる白焼も



白木造りの落ち着いた店内

人気のメニュー。

二階には18人までの座敷があり宴会も可。忘年会・新年会の予約を受付中だ。お昼の定食も1000円から13000円で6種類が揃っており、お昼ときは近くのOLや会社員で賑わっている。



# ポケット ジャーナル



## ★15人3団体に、兵庫県

「ともしびの賞」

長年にわたり、地域文化の向上に尽くした人をたたえた兵庫県「ともしびの賞」の受賞者が決定、11月5日県公館で表彰式が行なわれた。受賞者は次のとおり。



■臼井親井八幸  
曲家／林栄泉  
△茶道・華道／  
△本地スマハ／  
編纂者／稲垣  
栄達郎／洋画家／  
林 大川小雪／ハ  
カ ウンセリンド／  
舞／三枝重峰  
△俳人／中嶋  
信太郎／短歌／  
尾内重信／写真／  
黒田正敏／芸  
術文化／梅谷光信／郷土史／田  
中一郎／教育／楠木いほ／短歌  
・作詩／紙谷富子／筆曲家／  
小林愛知／淡路人形浄瑠璃／明石  
婦人サロン（池田智恵子代表）／姫  
路城新能奉賛会（山田留吉会長）／  
西紀町春日おどり保存会（橋本三  
男代表） 敬称略

★北野町旧ウオルヒン邸が  
香りの家「オランダ館」に  
北野町二丁目にある異人  
館旧ウオルヒン邸（元オラ  
ンダ総領事邸）が、十二月

十四日香りの家「オランダ  
館」（KK大和商事／黒田  
豊社長）として公開異人館  
の仲間入りをする。



完成予想南立面図

モルタ  
ルの吹  
付や、  
モルタ  
ル壁の  
煙突は  
昭和初

期に建てられた木造二階建  
の異人館にふさわしく、大  
林組と三井物産が再現に当  
り、神戸市教育委員会よ  
り、伝統的建造物として指  
定されている。

入館料三〇〇円の香りの  
家「オランダ館」は、ポプ  
リコーナーやボブリスケー  
リ、香りの占い、香りのクラ  
ブづくりや、オランダの歴  
史を語る会など香りとオラ  
ンダを中心に展開される。

★中央区北野町二丁目五ノ十 078  
(06)3330 AM10時～PM6時  
(冬期12月2月はPM5時閉館)  
年中無休

## ★文豪谷崎潤一郎ゆかりの 地に、文学碑建立

11月15日、神戸市東灘区  
の甲南学園甲南小学校で、  
この地にゆかりの深い谷崎  
潤一郎



校門の所に設置  
の生誕  
100周年  
記念の  
文学碑  
の除幕  
式があ  
った。

過去、水害により命を失  
った8人の児童の鎮魂の意  
味も込め、同校創立75周年  
記念事業として建立された  
碑には谷崎潤一郎の筆に  
なる「細雪」の書を中心に  
小磯良平画伯の描いた雪の  
結晶を配している。

堂々とした素晴らしい碑  
で、後のちにも地元の人々  
に親しまれるだろう。

★77歳、淀川長治さんを  
97歳中井一夫さんが激励  
兵庫倶楽部の創立7周年



講演で熱弁する淀川さん

記念特別講演会が、11月11  
日、国際会館4階小ホール  
で行なわれた。

## 誕生日 ありがとう 運動



「運動のご案内」を作成  
「詩かめ種ははえぬ」でがんばる  
う

本運動では、今まで五種類の啓  
発ビラを配付してきましたが、今  
回このビラをまとめて「運動の  
案内」を発行しました。

内容は、誕生日ありがとう運動  
とはに始まって、古切手収集と啓  
発シリーズ①運動のしおり増刊号  
の購読、②図書「ちえおくれの語」  
の頒布、③図書「はんざい」清き  
ころこの頒布、④映画「小さな  
輪、大きな輪」と⑤映画「うん  
とわとわしたち」の無料貸出し  
⑥啓発のつどいの案内、さらに、  
ボランティアへのご招待と古切手  
セットの販売と啓発シリーズ申込  
書というようになっています。

この「運動のご案内」の特長は、  
①運動の全般が、一目でわかり、  
運動の説明がしやすい。②「当地  
連絡先」の項があり、全国各地で  
配りやすい。③写真やカットとカ  
ラー印刷で親しみやすいようにな  
っています。

本部では、この新しい「運動の  
ご案内」の作成をひとつの契機とし  
て、運動の精神を各地でどんど  
ん広げたいと願っています。「詩  
かめ種ははえぬ」の謎どおり、速  
効を期待せず積極的な広報活動で  
がんばろうと思っています。  
みなさんも、本運動の広報活動  
にご協力いただき、みなさんの知  
人やグループで「運動のご案内」  
をどんどん配付してください。

配付の連絡は左記へ  
誕生日ありがとう運動本部  
651神戸市中央区御幸通八のの一六  
神戸国際会館一階の郵便局の隣  
078-741-3111

ゲストに、映画評論家の

淀川長治さんを迎え、「いい映画を観たときは、機嫌もいいし、人にやさしくなれる。そして何よりも元気がでる」と。映画の話、幼少の頃の話、最近感動した話など、ユーモアをとりまぜ、1時間半以上の熱弁で観客を酔わせた。最後は、97歳の元気な中井一夫元神戸市長と固い握手を交わし、淀川さんもびつくり。

### ★中西勝の自選展

本誌「セカンドカバー」でおなじみの、中西勝2紀会兵庫県支部長の自選展が11月4日(火)より29日(土)まで国府宮まで開催され、4Fの兵庫倶楽部において行われた。



過去の作品を多数展示

過去の数々の作品の中から、「春(椿)」「ロバと老人」「赤いマフラーの娘」等、合計10点の作品が選ばれ、展示された。

ギャラリーや美術館等と異なり、サロンの一画にさりげなく並べられた作品部は、ゆったりとした空間の中で、新たな印象を訪れた人々に与える。

「遊びの精神」の中の芸術性の発見になってくれれば幸いです」と中西勝さんは語っていた。

### ★ナツカシき木工品たち

「使った人の愛撫心」が「誠実美」を湛えていると俳人の永田耕衣氏が讃美する木工家の笹倉徹さん(71生/多加郡加美町在)の第二回個展が、十月二十九日から十一月三日まで北野坂のダイヤモンドギャラリーで開かれた。



笹倉徹さん(中央)

ストとの出会いもあり、重箱、盛器、菓子盆、杓子などの生活小物まで、五十点近くが並び、本人も驚く程の盛況ぶり。ハイテックな時代に、木工品の素朴なナツカシさが心に沁み入る作品展であった。

### ★暮らしの中の民芸品が

さんちかホールに集う  
兵庫県民芸協会に所属す

る14人の作家・工人による展示会が12月4日から、さんちかホールで開催される



くらしの民芸品がずらり

・木工  
・漆芸  
・染織  
の作家  
たちで  
行われ  
るのは

日本で初めてで、意欲十分。

「生活の中に息づく民芸品を、若い人たちがいろいろの人に見て知ってもらいたい。ハイカラな町、神戸にこそ民芸品は似合うと思うんです」と染織の白石弘子さんは語る。

当日は即売も行い、売上の一部を寄附する予定。

### 「くらしの工芸展」

■主催 兵庫県民芸協会  
■後援 日本民芸協会・神戸市・神戸新聞社  
■会期 12月4日(木)～9日(火)  
■会場 さんちかホール

### ★オペラ界の期待の新星

第55回日本音楽コンクール(毎日新聞社、NHK主催)の本選会が10月11日(土)東京・日比谷公会堂で行われた。

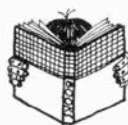


恒花洋子さん

全国各地から2回

の予選を経て選ばれた男子、女声各4人、計8人が

### 図書ガイド



「をんな学入門」  
大門 輝正・小島 輝正

鳥脚正神大名誉教授が軽妙洒落に筆を下ろした女アラカルト。神戸新聞と月刊オール関西掲載分を一冊にまとめたものだが、著者の20年にわたる女性への鑑賞が傾けられた恰好の著。一読再読、ニヤリニヤリと楽しめる。また随所に散りばめられた病健氏のカットが、これまた実にシャレている。  
A冬島房 1000円V



「文学のおもかげ 東遷」  
宮崎修二朗編

現代において人々が都市に集中するために、故郷の存在が希薄になりつつあることは否めない。しかし、富田静花先生の「ふるさと」は近くにあっても想うべきもの。言葉通り、そこに住み、そこに生きている限り、故郷はある。東遷という土地に限定したのにもかわらず、どこに住む人にも「ふるさと」の香りを蘇らせる力作である。  
A神戸市民文化振興財団・神戸市立東灘文化センター 千300円V



「汽車の詩 国鉄全線乗りあふ」  
上川庄二郎

旅は人々の郷愁を呼び起こす。しかし、最近では、旅先へ到着してからが旅のように思われている。だが、本当の旅は移動する時から始まっており、車であれ、列車であれ、窓の外を流れる風景がよりその旅を思い出深いものにする。著者は、国鉄全線を乗りあふ。何故、国鉄が民営化せざるをえなかったか。またで言及し、列車の旅の良さを再確認させてくれる。  
A神戸新聞出版センター 千200円V



出場。今回、唯一、関西から勝ち抜いてきた恒花洋子さんは、惜しくも優勝は逃したものの、入選。

「現在第一線で活躍されている方や、ヨーロッパ留学中の方など、実力者と競いあえたのは良い経験になりました。今度出場する時は入賞したいですね。」と恒花洋子さんは語った。今後の一層の活躍が期待される★夢を乗せて……文明開化期の汽車の錦絵展

今年の7月、国鉄全線を乗り尽くした上川庄二郎さんが、機関車の錦絵の展覧会を開いた。10月25日から11月9日まで、三宮サンパ

## 花時計



「何もなかった神戸」

「なんか知らんが今年もいよいよ終りやなア」という声が聞かれ始め、町で早くもクリスマスの飾りさえ見られるようになってきた。

今年の神戸のビッグなニュースといえば「明石海峡大橋」の建設が決定



（上川さん）は、上川 かんべい氏。東京の作品の前で。

ルのジュンク堂ギャラリーで開かれたこの展覧会に、上川 かんべい氏が10年が10年、東京などの古本屋で集めた70点余りの錦絵の内、生田川鉄道「蒸気」など、神戸にゆかりの深い23点が展示された。

「汽車には人間臭さがあり、鉄道には、いつまでもロマンを残しておいてほしいですね」と、国鉄民営化を前に、複雑な面持ちだ。

★日本SFF大賞にかんべい氏 第7回日本SFF大賞（日

したというところだろう。しかし、これによって街が賑わうということはない。兵庫県知事が坂井知事から貝原知事にバトンタッチという交替劇もあつたが神戸の賑わいとは無関係である。

「円高不況」といわれながら、昭和六十一年は足早に過ぎ去ろうとしている。はてな、何んにもなかった神戸ではないかな。何んにもなかった神戸ではないか。勿論、組関係の抗争などごめんだが、神戸も無関心であ

本SFF作家クラブ主催）をかんべむさし氏の「笑い宇宙の旅芸人」（徳間書店）が受賞、賞金100万円を獲得。

かんべ氏は昭和23年金沢市生まれ、関西学院大学社会学部卒業後、広告代理店にコピーライター等で勤務

に。昭和50年作家として独立スタートした。



かんべむさし氏

なお、贈呈式は12月4日午後6時、東京丸の内の東京会館で。

ユニークな発想、シニカルタッチのナンセンスSFF作家として、これからも大いに活躍を願う。

ればなにも起きないし起らないのである。

いまや都市はイベント時代なのである。来年は開港百二十年ということである。いろいろなイベントも企画されているようだが、ただ行政まかせではあまりいいイベントにならない。経済界や商業界が金儲けに走るのとは当然のことながらそれだけでは済まない時代である。同時に街への目配りも大事な時代になっていることを知らぬ顔では困る。

△Y▽

## KOBE POST

★坂井時忠知事は十一月二十三日を持って十六年にわたった兵庫県知事を退任され、このほど勲一等瑞宝章の栄に浴されました。長年の活躍とご苦労を「感謝する集い」発行人代表、石野信一氏が、十二月四日神戸ポートピアホテル借業の間で開催されます。

★元神戸市長で現にも弁護士として活躍される中井一夫氏が勲一等瑞宝章を受章。十一月七日に神戸ポートピアホテル借業の間で叙勲を祝う会が開かれました。

★故成瀬香桜の一周忌追善花展が十一月二十九・三十日、全仏会館五階の兵庫県陶芸館で開催された。

★パリでチェロの研究と教授に専念していたチェリストの持谷千秋さんが帰国。新住所は〒600-16三田市藍本23-17/600-07956(8)0194

★障害を持つ子供たちのために布で作った手でせられる絵本と遊具を「兵庫される絵本連絡協議会神戸支部」（田中君代会長）が、十一月十二日に発足しました。興味のある方は連絡先/中谷ひろみ08(783)2704

★匠の心が息づくKKイズム（小田俱樂部社長）の新社屋が十一月十一日に完成披露パーティが。〒650神戸市中央区布引町一丁目一番地十号08(22)3641190

★株式会社アパンの代表取締役石原氏が退任。後任には小林新吉氏が新社長に就任されました。〒650神戸市中央区港島中町6丁目3番5号

★邦舞の西川壽之助師が移転。〒642大阪府南区日本橋一丁目十ノ十二サンクレール日本橋06(213)14661

★西村功画伯のご母堂直さんが83歳で十月二十六日に亡くなりました。二十八日に鴨子原の自宅でご葬儀がとり行われました。ご冥福をお祈り致します。

★UCC上島珈琲本社（西田優一さんのご尊父昌雄さん79歳）が十月十一日亡くなりました。合掌。



神戸で初めての

韓国スナック **世宗**

が11月5日に open

'86 ソウルアジア大会も盛況裡に終り、  
いよいよ '88 ソウルオリンピック に向  
けて韓国は躍進しています。おかげさ  
まをもちまして韓国料理「鳳仙」も開  
店2年目を迎えましたが、この度韓国  
スナック「世宗」(セジョン)をお手輕  
な料金で楽しめると開店いたし  
ました。ぜひお立寄り下さいませ。

李 元仙



神戸のアーティストと共に

韓国スナック **世宗** 3F ☎ 392-1727

姉妹店／ 韓国料理亭 **鳳仙** 6F ☎ 391-2147

神戸市中央区北長狭通1-6-10 ニューキャスルビル



三平の

やぶにらみ見聞録

〈最終回〉



小関三平

(神戸女学院大学教授)

カメラ／池田年夫

生き耐えて、息絶えず…

根づいて十年―『ふえろう村塾』

神戸市は、大都市では珍しい「農業公園」なるもの

を、持っている。もっと農業に関心を、という趣旨だろうが、じつさい、市域のほとんどは、山間部と農村地帯が占めているのである。

ただし、農業公園の人氣は、もっぱら「ワイン城」のおかげによるもので、訪れる市民の関心は、ワインとステーキの消費にあっても、「農園」とか「生産」にはないだろう。

ましてや、その近くに、有機農法を営む若もののコンミュン―『ふえろう村塾』があったことなど、だれも



ここがふえろう村の本部(上)ちょっと手伝ってみたものの…

想い起しなどしまい。

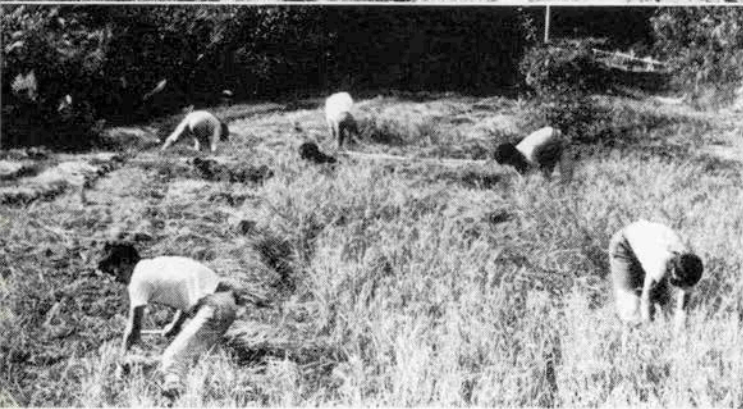
「西神開発」のあおりを受けて、せっかく伊川谷に根づいていた、この農業生産法人は、「立ち退き」を迫られて、やむなく、小野市の山中に引越した。四年前のことだった。農業公園がそのあとにできたのは、皮肉である。神戸市は、その誇りともなるべき、ある意味でナウい(?)はずの、シンボルの一つを、敢えて捨てたことになる。

ところで、その『ふえろう村』が、この十一月で、創設十周年を迎えた。七〇年代にあちこちで生れた「コンミュン」が、つぎつぎに挫折して消えて行っただけは、きわめて稀な例外と言わねばなるまい。

それに、「有機農法」と取り組むプロ農家は、ちらほらあっても、ズブの素人集団が、共同生活をしながら十年もつづけたこれは、タイヘンなことである。少なくとも関西では、ここだけだろう。

大いに感嘆し、且つは好奇心に駆られて、私たち取材班は、小野市は脇本町へと向かったのである。

長い新神戸トンネルを抜けて箕谷に出ると、そこからもう、すっかり秋の色に染め上げられた山間を走る、県道五〇号線である。箱谷千年家・吞吐ダムを右にやり



今日は稲刈りです。朝から稲を刈り、束ね、掛けていく、ただひたすら黙々と（左）ふえろう村の10年が創り上げた顔です（華房良輔さん）

過して、志染から三木グリーンピアへと右折・北上すると、三木と吉川を結ぶ中間点・桃坂に出る。そこから更に、ざっと三キロ西北に入ったあたりに、目指す『ふえろう村』はあった。三宮からクルマで一時間、神戸電鉄・上の丸駅、小野駅、中国ハイウェイバス・東条駅を結ぶ三角形の真ん中あたりで、かなり不便なところである。この三点からそれぞれ、途中まではバスを乗り継げるが、あとは一時間前後も歩かねばならない。徒歩五分のバス停（脇坂新田）はあっても、小野駅前からのこの路線は、一日に三便しかない。

さて、そのバス停から東にガタガタ路を入って行くと、突然、堂々たる三階建てのビルみたいなのが、目の前に現われる。これが、このコミュニティの宿舎であり、本部なのである。いささか意外な感じがしたが、一種の下駄履き住宅で、階下は農具・工具の物置きになっており、右に目をやると堂々たる畜舎がいくつも並んでいるのですぐにナットクした。

トリ・ブタ・ウシの糞尿の臭いに包まれた、泥んこの坂道を少し行くと、稲の取入れに励んでいる若ものたちの姿が、目に入った。馴れない手つきで、束ねた稲を稲架に掛けていく。あまり陽当りがよさそうには思えない。細長く曲りくねった帯状の、段々畠である。闖入者の気配に振り向いた一人のオジサンが、作業の手を休めて、「よおーッ」と挨拶してくれた。





本当に手作業だけ、昔懐かしい農業です(上)  
子連れの塾生もいて、みんなのまわりで遊びながら、時にはお手伝い(下)



オジサンは、今どき珍らしいラクダのシャツを着て、部厚いウールの股引きを履き、泥んこのブーツで、田んぼのぬかるみを歩きまわっている。素早い身のこなしである。腰には、包装に使う紙紐を巻きつけ、そこに扶んだワラで、稲をクルクルと束ねる。馴れた手つきである。括った稲束が幾つか溜まると、肩にかつき、畔道まで運んでは、また、もどる。

それが、通称「ボス」こと、『ふえろう村塾』の創始者・華房良輔さんだった。真っ黒に陽焼けして、もうすっかり、「百姓」の顔になっている。もともとの精悍さに加えて、十年の苦闘に鍛えられ、志を貫いてきた者の、風格と威厳がある。不健康な夜行性の生活をいまだに抜け出せない私など、なんとなく気押されてしまう。

しかも、相手は、民放の初期以来、花形放送作家として鳴らした、プロの物書きであり、今は、大地に根をおろした、逞しい農民でもある。ところが、こちらは、泊り込みや農作業への参加もせずに、おこがましくも「ルポ」を書くなどというのだから、内心大いに恥ずかし

く、後悔しないわけにはいかなかった。  
が、華房さんは、あたたかく気さくに、応対してくださったので、私は、忙しく立ち働く彼を邪魔しながら、あれこれと愚問を発することができたのである。

意外なことに、彼はもともと植物や動物が好きで、農学部に一旦は入ったし、マスコミ稼業のあいだも、ずっと農業への夢を抱き、ひそかに準備していたのだ、と言う。七〇年代の農業問題やコンミューン運動にも、刺激されたにちがいない。「村塾」とつけたのは、若ものに教えるというよりも、自分が学び育ちたいと思つてのことだった。四七才の彼が旗を掲げて呼び掛けると、幾人かの若ものが集まってきた。多くは、「大学闘争」にかかわった連中だった。

今、初期のメンバーは、ほとんど残っていないが、『ふえろう村』は生き耐えた。経営効率の比較的良好畜産にウェイトを置いたからだだろう、と「ボス」は振り返る。それに、朝穫った野菜を昼前に届けるという新鮮さも、



農業を愛し、ふえろう村を愛するボス

消費者たちのあいだで人気と信頼を集めるにあずかった。

もつとも、無農薬野菜は、やっぱり、作るのが大変だし、虫取りその他の労力の割には、儲けが少ない。トマトが病気で全滅したこともあるし、天敵が戻ってきてくれるまでの三〜四年は、さまざまな虫害に悩まされる。で、実際には、野菜のウエイトは五分の程度に抑えているが、品質には自信ができて、少なくとも三分の一は、うまくできたと確信を持って、出荷できるまでになった。苦節十年の成果である。

今では西は姫路から東は宝塚・尼崎まで、特約の消費者はざっと三百世帯もあり、野菜は年間四〇五〇種類も作れるし、畜産の方では、食肉加工業の資格も取り、立派な冷凍庫も備えている。

当然、

「ふえろう村」の名は、全国の同業に知られ訪ねてくる者もふえた。華房さんがその氣になれば、各地のコンミューンを渡り歩くだけで生活できるほどの、カオになった

それはともかく、「交流」は絶対に必要だと、彼は言う。競争心を駆り立て、反省を迫り、技術向上への意欲をリフレッシュさせるからだ。

だが、問題はあるらしく、「ふえろう通信」の三五号は、開村十年を迎えての反省点を、十項目も挙げている。

- 1、「共同体」の内実（自主性・労務管理・私有財産）
- 2、指導的立場に在る者の姿勢
- 3、障害者に対する姿勢
- 4、労働意欲の個人差と生産効率
- 5、農業技術の継承と習得
- 6、収益の横這い、又は赤字
- 7、後継者の不在と永住意志の乏しさ
- 8、男女関係と性的モラルの不安定
- 9、反原発その他の運動体との交流
- 10、新入塾生の受け入れかた

これから浮かび上る最大の問題は、やっぱり、「集団生活」のむずかしさ——とりわけ、塾生の動機や意欲のちがいが、そして、数少なくなったベテランたちと、一部の気まぐれでルーズな塾生たちとのギャップに、あるらしい。十人食べるのがやつとやのに、十七人も居て、しかも、ほんまに農業が好きや言う奴なんか、ほとんどおらへん……というのが、「ボス」の嘆きである。

十周年祭りの前夜、食堂兼談話室には、OBたちが十人ばかり、集まってきて、賑やかな酒盛りが始まった。九州・高知・広島・舞鶴その他から、かつての同志が馳けつけてきたのである。たちまち、一升ビンがテーブルに林立し、梁山泊風の酒盛りが始まると、「ボス」は、にわかにハシヤギ出した。近頃の連中は酒も飲まんからな、焼酎開市派の華房さんは、苦笑する。

だが、蜜カラなOB連中を、おとなしく壁際で眺めていた現役塾生だって、そのうち逞しく育つかもしいれない。たとえ一時の「居候」に終って去るとしても、「ふえろう」体験は、彼らの心深くに、一粒の麦として残るにちがいないのである。